

地域住民主体のサル対策の取り組みについて

～川合地域モンキーキャッチプロジェクト～

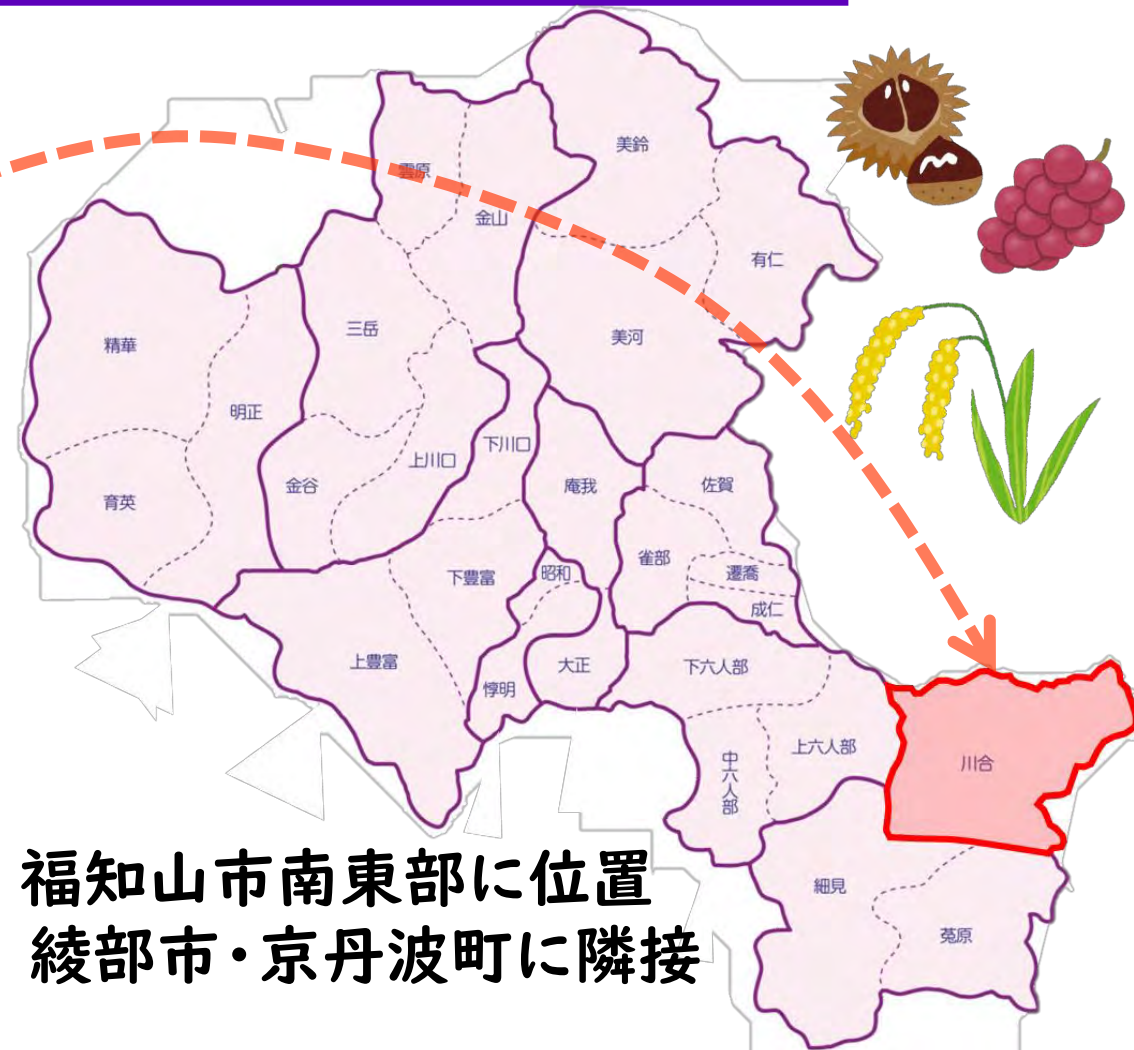
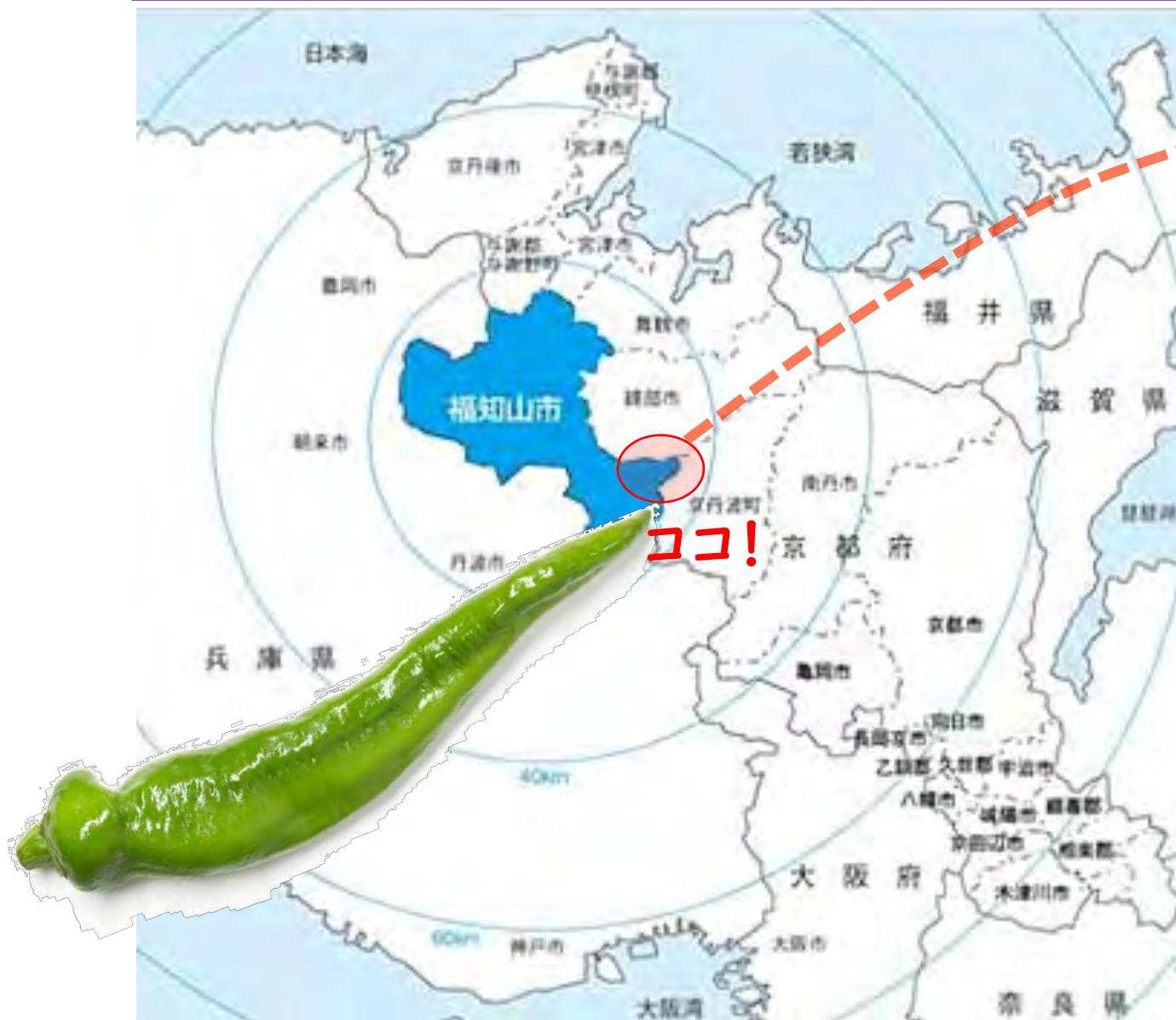
川合地域農場づくり協議会
代表 土佐 祐司



福知山市三和町川合地区とは…？



福知山市三和町川合地区とは…？



福知山市南東部に位置
綾部市・京丹波町に隣接

～主な生産物～

・水稻 ・小豆 ・万願寺甘とう ・葡萄 ・丹波栗

川合地区のサル対策の歴史（略歴）

時 期	内 容	
平成15年頃	地域内で野生猿の群れによる農作物被害が発生	被害発生
平成24年	試験の結果、最も効果のあった「おじろ用心棒」を採用して、圃場の防除	
平成31年	群れの頭数が増加し、人家への侵入などの生活環境被害も発生 小型の捕獲檻、大型捕獲柵（地獄檻）による捕獲にも注力	
令和元年	地域住民主体の「追い払い」「防除」「捕獲」と複合的なサル対策の態勢づくりが出来上がる （動物駆逐用煙火による追い払い。おじろ用心棒等による防除。捕獲檻・柵での捕獲。）	
令和2年	メスザルに発信機を装着し、地域住民がサルの追い払いを実施 サル群れの位置情報をLINEグループ「モンキーキャッチプロジェクト」で共有し、計画的な捕獲や防除に活用	
令和3年	広域的な対策を検討するため2市1町で「ニホンザル綾部E群連絡会議」を設置。 モンキーキャッチプロジェクトにも他市町のメンバーを追加し、サルの群れ位置の情報を共有。	
令和4年	◦「サルイチ」の導入による地域住民への群れの位置共有と、移動経路データ化 ◦ICT機能付きの囲いわなを追加設置し、捕獲体制を強化。 ◦電気柵電圧遠隔管理システムを試験導入し、電気柵の通電状況の確認の負担軽減。	ICT等の活用による省力化

川合地域へのサル出没の状況



ニホンザルによる農業被害



サルの被害は神出鬼没…だからこそ地域の協力が必要！

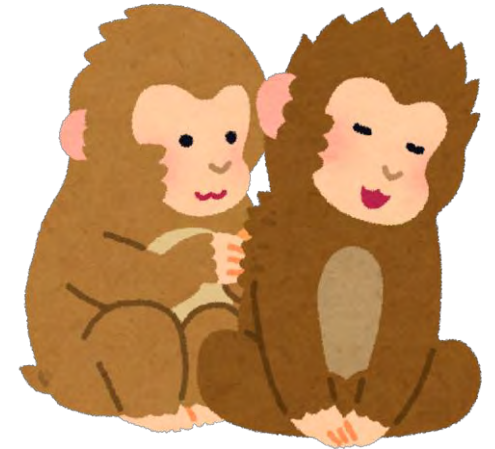


被害あり

- 被害軽減のためには捕獲もやむなし！
- 近づいたら追い払いをしなければ！

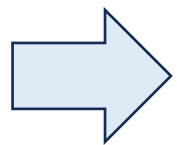


被害なし



- 駆除してしまうのはかわいそう…
- 被害さえなければ近くに居ても問題ない

サル被害経験の有無で対策に対するモチベーションに大きな差が生じる…



地域全体で対策の方向性を共有することが重要！！

地域で話しあい対策の目標を共有

上位目標

「川合がいつまでも川合であるために」
SDGs: 17の目標「11.住み続けられるまちづくり」



具体目標

共存可能な範囲までサル被害を軽減させる



3本柱の対策

追い払い

住民参加型の組織的な追い払い

防除

圃場へおじろ用心棒を設置

捕獲

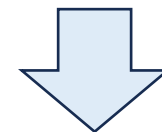
群れ（綾部E群）の数を40頭程度に維持するための捕獲

当事者意識の共有と対策実施の合意形成

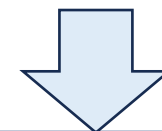
データの蓄積で効率的な対策を実施



過去の移動ルートの分析により、「次はサルの群れがどこに移動するのか？」を高い精度で予測



実際の位置情報を地域住民がリアルタイムに共有 (LINEやサライチの通知メール)



〈追い払い〉

被害発生を未然に防ぐために先回りして追い払いを実施

〈防除〉

電気柵の通電状況を確認

〈捕獲〉

捕獲檻への集中的な誘引実施

【追い払い対策】発信機による群れの位置把握

① 捕獲したメスザルに首輪型の電波発信機を装着



- ・現在は3基の発信機が稼働中
- ・対象となるサル群れ（綾部E群）は調査の結果30～40頭で推移している。

② 地域住民が群れを追跡して位置を把握



- ・地域住民に貸与している受信機を用いてサルからの電波を追跡する。
- ・綾部E群は綾部市・京丹波町・福知山市（川合地区）を広域で移動するため追跡も広範囲にわたる。

③ グループLINEで位置情報をリアルタイム共有



- ・LINEグループモンキー「キャッチプロジェクト」で群れの位置情報を共有。グループメンバーには他市町の関係者も含まれており、現在46人で運用。

←集落センターにサルの位置情報を示すサルアラート看板を設置して、注意喚起も行う！

④ サルイチにも情報共有し、周辺住民にメール通知



出典：NPO法人里地里山問題研究所HP

【追い払い対策】 煙火による組織的な追い払い



軽トラに車載アンテナと受信機を載せて、サルの反応がある地区を特定し、群れの位置を把握！⇒リアルタイムに共有

サルの群れが視認できた場合は、動物駆逐用の煙火を使って組織的に追い払い！
(煙火消費保安講習の費用は協議会が負担し、自己負担なし)

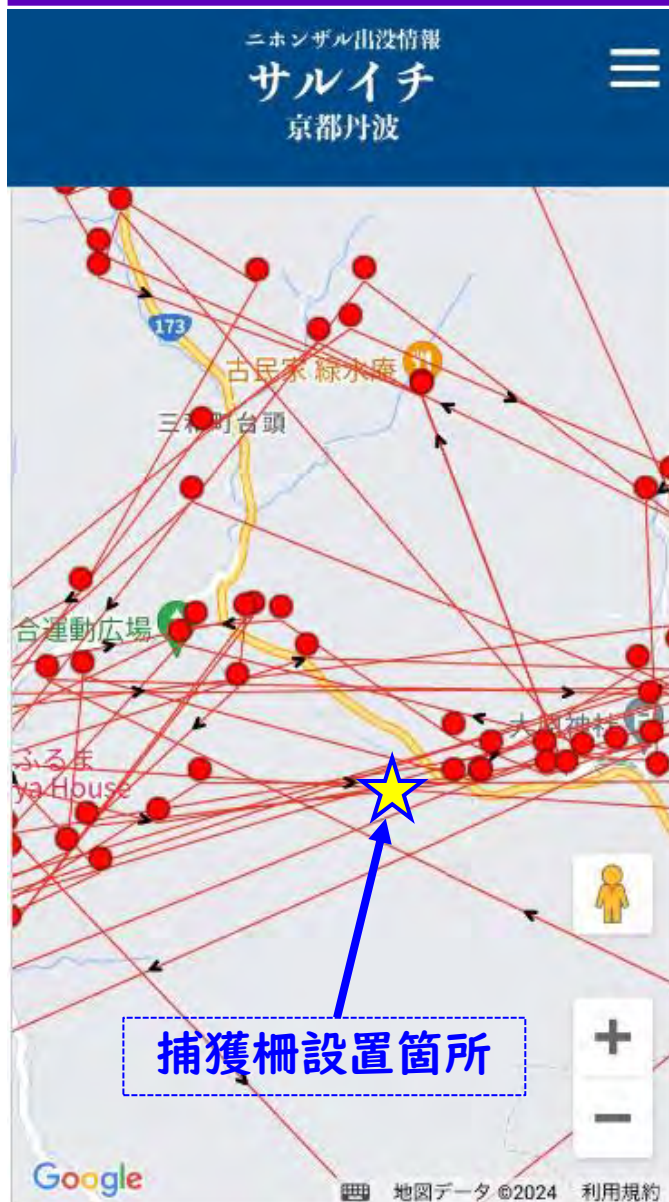


【防除対策】 おじろ用心棒の活用



- 平成24年頃からおじろ用心棒を活用した防除を実施
- 令和4年には電気柵の電圧遠隔監視システムを試験導入し、ICT機器を活用した管理の効率化も検討。

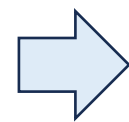
【捕獲対策】捕獲檻・捕獲柵の効率的な運用



課題

- 毎日漫然と餌撒きを行っても、小動物に食べられたり、腐ったりしてしまうため管理のモチベーションが継続できず、餌の経費も増加
- 群れが近づいたタイミングで檻の中に餌が無いということも…

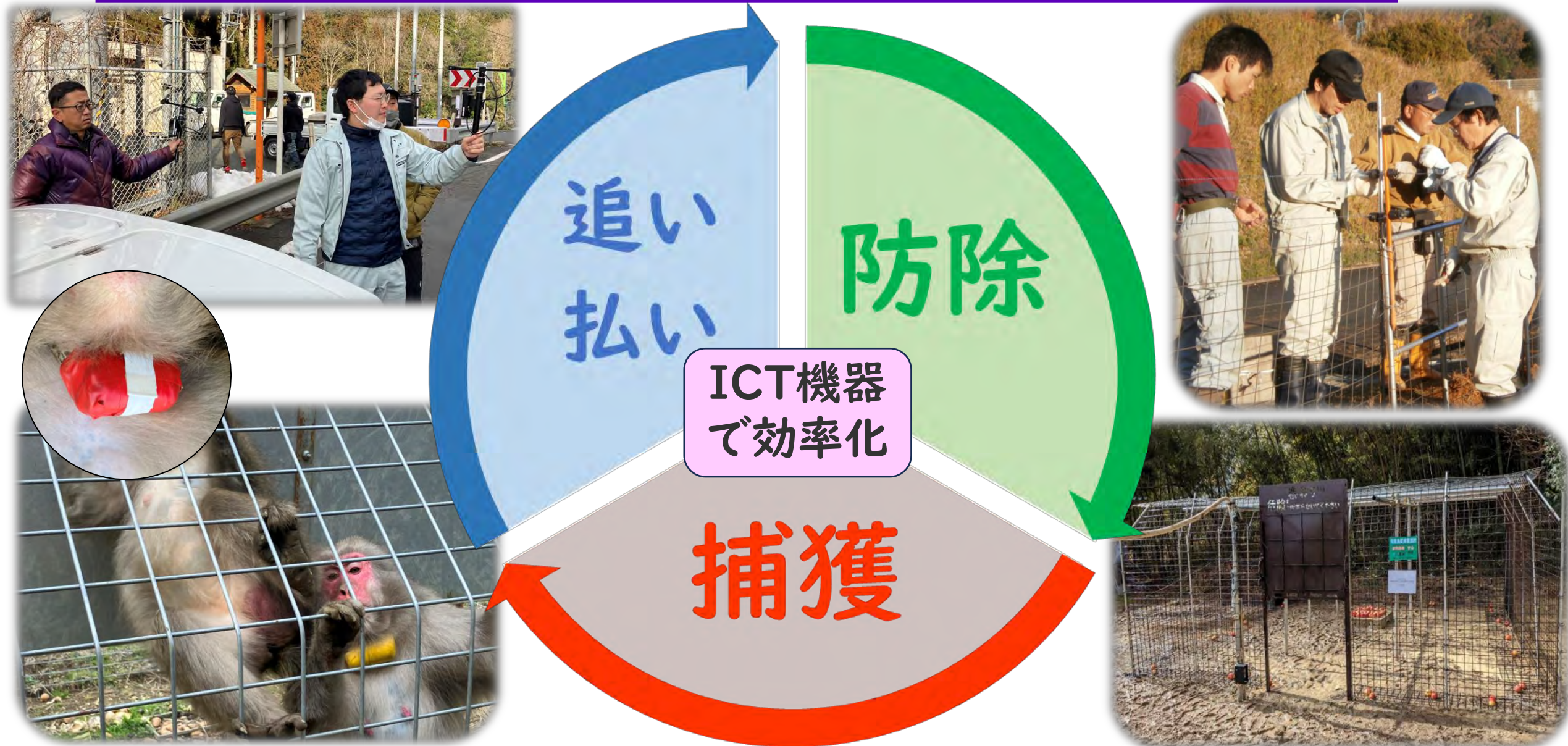
過去の蓄積データから、今後の移動ルートを予測



捕獲檻・捕獲柵の付近をサル群れが移動するタイミングで、餌による集中的な誘引を実施し、効率的に捕獲！



地域住民が主体となって対策を継続



楽しい獣害対策で地域を活性化！



里山体験



放任果樹対策



地域活性化

○川合地域で廃校になった小学校を、現在「福知山里キャンプ」という名称でキャンプ場として活用中。

○キャンプ場利用者に対して、里山体験として、放置柿のもぎ取りイベントを実施。
京阪神の都市部から来場した家族連れを中心に人気のプログラムに！



楽しくないと獣害対策は続かない！

キャンプ場利用者 : 都会では出来ない経験が出来て楽しい！

果樹の持ち主 : 大変だった果樹回収の手間が減って嬉しい！

地域の住民 : サルやクマの誘引物が無くなってありがたい！

WinーWinーWinで三方良しの取り組み

ご清聴ありがとうございました！

「川合がいつまでも川合であるために」
**を合言葉に、今後も地域づくりの一つの
手段として獣害対策に取り組んで参ります！**

川合地域農場づくり協議会